

## 「自分だけにしか出来ない仕事」へのプライド

所属 生物機能デザイン研究室

学年・氏名 修士2年 月野 真理子

大塚製薬株式会社 佐賀栄養製品研究所

私は、2010年9月6日～12日の7日間、大塚製薬株式会社佐賀栄養製品研究所へインターンシップに行かせていただきました。大塚製薬株式会社は、病気の治癒に寄与する“医薬品事業”と日々の健康をサポートする“消費者関連事業”を手掛けておられます。私が訪れた佐賀栄養製品研究所は消費者関連製品や情報の発信地として、「栄養」と「運動」をテーマにした研究を進めている施設です。

実習期間中一番印象に残っているのは、指導担当の方から与えられた二つの課題です。その内容は、翌日の実験に使用する試薬計算と研究計画書を模した「コンセプトシート」の作成でした。実験の待ち時間を利用して課題発表と討論を行ったのですが、意見を伝えきれないもどかしさや新しい発想を導くことの難しさを体感することができました。同時に、討論を通じて研究者として日々何を感じ、何を考えているかを垣間見ることが出来た気がします。それは

- ・普段から専門分野以外のことにも興味を持つこと
- ・計画の時点からあらゆることを想定しておくこと
- ・多くを想定しているからこそ、想定外の出来事への対処が迅速に行えること

です。ごく当たり前のことかもしれませんが、これらの重要性を再認識しました。

私が本インターンシップに参加した目的は、一企業や研究施設で働く方々を間近に見て、その思いや志を肌で感じること、そして『働くこと』について考えることです。研究所の方と話をする中で感じたのは、「自分達にしか出来ないことをしている」という誇り高い姿勢でした。大塚製薬株式会社の研究開発の姿勢には「大塚にしかできないこと、大塚だからできること」というものがあります。研究所の方一人ひとりがプライドを持って仕事をしている姿を拝見できたことが、本実習で一番の収穫でした。『働くこと』に関する問いへの自分なりの考えはまだ出せていませんが、この実習がヒントを与えてくれたと思っています。

最後になりますが、インターンシップを受け入れてくださった大塚製薬株式会社佐賀栄養製品研究所の皆様、ならびに手続き等にお力添えいただいた九州大学の先生方、支援室の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。